

## 癌治療における代替療法の役割と問題点 (メシマコブの使用経験から)

○吉澤 明孝、吉澤 孝之

要町病院

### 【目的】

代替医療は、身体の内自然治癒力に働きかけて病状の回復を目的とする医療であり東洋医学に近似し、欧米では早くから研究と実践がなされてきている。今回、代替療法の一つであるメシマコブによる効果を経験し、現在の代替療法の効果と問題点を考察する。

### 【症例】

59歳 女 胃癌術後再発転移例：H元年胃癌にて癌専門病院で手術施行、H10左上腹、胸壁膜再発、放射線治療施行予定するも、貧血、疼痛強く緩和ケア目的で10月12日紹介。入院後、輸血施行、H10.10.13よりメシマ2～3g/日開始、SSM A,Bにて3回/週開始H10.11.2より11.30まで5FU+MMC+レンチナン化療施行し、H10.12.5疼痛など症状軽減され、食欲増進あるがCTではNC、希望にて退院となる。H11.1.30とH11.4.9CTにて縮小傾向見られた。H11.7左大腿骨、恥骨転移にて放射線治療施行し軽快、H11.12肺転移みつかる。H12.1.9他院にて血管内治療施行開始、反応良好にて数回で転移消失。H14以降現在まで、明らかな転移は発見されていない。免疫力としてNK活性と、T細胞免疫としてCD4,CD8を測定した。入院時低値であったが、メシマ服用後正常範囲内で安定しており、骨、肺転移発見時もNK活性は安定、治療反応性も良好であった。結果的には投与前に比べNK活性の上昇維持がされており、患者の前医余命予測を更新し、ADL, QOLも維持されているといえる。

### 【考察】

メシマコブは、1968年に日本で基礎研究され、韓国で培養に成功し医薬品として認可されている薬であるが、日本では健康食品に含まれる。当院のデータではNK活性が維持され、化学療法との併用で副作用の軽減、治療効果向上、患者の気力、前向き思考維持向上に効果がある印象を持つ。しかし、現在の代替療法は、その効果に対してのエビデンスに欠け、医療者側が受け入れにくく、患者家族が隠れて施行している例も多いのが現状であり、早急なデータの集積と解析が必要である。

### 【結語】

代替療法は全人的医療の一つとして患者家族に希望を与え、QOLの向上に役立つものでなくてはならない。それには、データの集積により、EBMを満たすものでなくてはならないと考える。